

2005年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2006年 1月 31日

I 概要

実践団体・担当名	NPO 法人ぴーす (担当者：小田多佳子)
連絡先	電話 072-250-9060
プランタイトル	『障害児のための防災』を考えるプロジェクト
目的	障害児にとっての「防災ニーズ」を、障害児保護者から聞き取り分析することで、そのニーズを明確にし、それを冊子にまとめ、各家庭/各地域/学校/行政へ提案することを目的とする。
プランの概略	<p>第一回防災勉強会：養護学校保護者を対象に、防災の勉強会を実施</p> <p>アンケート調査：養護学校保護者を対象に、アンケート調査の実施 アンケートの分析</p> <p>冊子制作/配布：分析内容を元に、防災冊子を制作 防災冊子を、当事者/学校/各地域/行政へ配布</p> <p>シンポジウム：分析内容をテーマにしたシンポジウムの開催</p>
プランの対象と参加人数	<p>開始前の予定：堺市内の養護学校（3校）の児童生徒 約 600 名</p> <p>開始後の対象：堺市内の子どもが通学する養護学校/聾学校(全5校)の児童生徒 852 名</p>
実施日時	<p>第一回防災勉強会 9月30日(金) 10:00~12:00</p> <p>アンケート調査 10月31日(月)~11月14日(月)</p> <p>アンケート集計 11月8日(火)~11月30日(水)</p> <p>アンケート分析 12月1日(木)~1月10日(火)</p> <p>防災シンポジウム 1月30日(月) 10:30~12:30</p>
主な実施場所	<p>第一回勉強会 (財)南大阪地域地場産業振興センター セミナー室</p> <p>防災シンポジウム 堺市総合福祉会館 大研修室</p>

連携した団体名、 連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	<p>第一回防災勉強会 (1)NPO 法人青少年育成審議会 JSI アンケート調査 (2)大阪府立和泉養護学校 (3)大阪府立堺養護学校 (4)大阪府立堺聾学校 (5)大阪府立泉北養護学校 (6)堺市立百舌鳥養護学校 (7)自立生活支援センターマイロード (8)地域生活支援センターナイスネット (9)総合生活支援センターえると (10)堺市社協ふれあいピアセンター (11)生活支援センター堺あけぼの (12)障害者生活支援センターファイト (13)障害者(児)生活支援センターおおはま (14)障害者(児)生活支援センター白鷺園 (15)地域生活支援センターフィットウェル (16)障害者地域生活支援センターうてな (17)堺市立第1つぼみ園</p> <p>防災シンポジウム (18)堺市手をつなぐ育成会 (19)野田まちづくり協議会 (20)堺市危機管理室 (21)堺市障害福祉課</p> <p>後援名義 プロジェクト全体：堺市 堺市社会福祉協議会 堺市身体障害者(児)団体連絡協議会 第一回防災勉強会：大阪府教育委員会 堺市教育委員会 防災シンポジウム：堺市教育委員会</p>

	<p>連携したきっかけ・理由</p>	<p>(1) 堺市で活動されているNPOで、防災に取り組んでおられるので、防災知識の乏しい私達に「防災面」を助言していただこうと思った</p> <p>(2)~(6) 各学校保護者全員へのアンケートの配布や回収をするには学校の協力が必要で、また勉強会やシンポジウムの参加PRもしていただければと思った</p> <p>(7)~(17) 障害福祉の観点から、アンケートの聞き取り内容に専門的アドバイスをいただきたいと思った</p> <p>(18) 堺市で最も大きな知的障害者団体。理由の1つはシンポジウムを広くPRをしていただくため。もう1つは、多くの参加を促すため参加費を無料にできるように、冊子制作を予定より多く行うことができるよう、資金協力をいただきたいと思った</p> <p>(19) シンポジウムの内容に「一般市民で防災に取り組んでいる方」をお招きしなかったため、防災マップを作成している地区の代表者をお願いしようと思った</p> <p>(20) シンポジウムの内容に「堺市の障害福祉行政」の意見を入れたかったため、お願いしようと思った</p> <p>(21) 中間報告でのチャレンジプラン実行委員会からいただいたアドバイスを参考に、堺市危機管理室から「堺市の防災」について話してもらうことをシンポジウムに入れようと思った。</p>
	<p>連携団体へのアプローチ方法</p>	<p>(1) 以前より子育て支援活動等において、おつきあいがあったので、訪問し申し入れた</p> <p>(2)~(6) 各学校の協力保護者より、校長へ申込をし、訪問の上説明をした</p> <p>(7)~(17) 堺市障害福祉課へ主旨を説明にいき、堺市委託事業の生活支援センターの連絡会議に出席、協力を願った</p> <p>(18) 以前より、障害福祉の活動で協力体制をとっているため、会長を訪問し、申し入れた</p> <p>(19) 堺市の市民活動補助事業のプレゼンテーションの席で同席したご縁を頼りに、電話をし、申し入れた</p> <p>(20) 電話等で主旨を説明し、依頼書を送った</p> <p>(21) 堺市の「出前講座」を利用し、申込の上、依頼書を送った</p>
	<p>連携団体との打合せ回数</p>	<p>(1) 訪問打合せ 2時間4回、その他はメールにて多数</p> <p>(2)~(6) 各校に訪問打合せ 30分を(3回×5校=)15回 (堺豊学校はPTAと)</p> <p>(7)~(17) 訪問打合せ 30分2回、その他はメールで多数</p> <p>(18) 訪問打合せ 2時間2回、その他はメールで多数</p> <p>(19) 訪問打合せ 1時間1回</p> <p>(20) 訪問打合せ 1時間1回</p> <p>(21) 訪問打合せ 1時間1回</p>

	<p>連携団体との役割分担</p>	<p>(1) 第一回勉強会の内容の企画や検討 講演内容などの準備 講師派遣 新潟より講師手配 大阪府教育委員会後援名義の申請 など</p> <p>(2) (6)対象者全員への PR やアンケートの配布回収への協力</p> <p>(7) (17)アンケート内容への福祉分野からのアドバイス</p> <p>(18)冊子制作の資金協力と、シンポの PR</p> <p>(19)シンポへ一般市民の声を反映させ今後のつながりにする</p> <p>(20)シンポへ福祉行政の声を反映させ今後のつながりにする</p> <p>(22) シンポへ防災行政の声を反映させ今後もつながりにする</p>
--	-------------------	---

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	3名
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの 役職・役割	代表 小田多佳子（プランの企画） 副代表 松本尚子（対象者の意見調査） 会計 梶山由紀子（予算組み）
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	H16年 12月～ H17年 1月14日
	立案時間	およそ4時間
	上記のうち打合せ回数	4回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども自身が、一般的意味で「防災を学ぶことが難しい」重度障害児の防災を考える企画を実施したい。 ・ 保護者が子どもの代弁をし、ニーズを正しく表明できるような機会を設けたい。 ・ ただニーズを出すだけでなく、まず自分達に何が出来るかを明らかにしたい。その上で、各立場の方々に「障害児家族のニーズ」を伝えたい ・ 障害福祉や養護学校という限定された場の人だけでなく、広く市民に伝えられる印刷物を制作／配布したい。 ・ 障害児といっても、いろんな障害種別／程度があり、通う学校も、地域の小学校／中学校、養護学校／聾学校／盲学校、高等学校／専門学校と、幅広いので、その中で養護学校に焦点をしぼり実施することを、他の障害児関係者に理解してもらえようようにしたい。 ・ 私達は、障害児家族の支援のみで活動をしてきた団体なので、広い意味での障害福祉や、防災についてほとんど知識なく、その不足をどう補うかを考え、他団体の協力を積極的に取り入れることにしたい。 ・ 特に防災意識の高くない家族が多いので、勉強会はわかりやすい「基本的／具体的な話」にしたい。 ・ 同じく関心の薄い人が多いので、実際に災害にあった新潟や神戸から講師を呼び、体験談を勉強会の中にとりいれたい ・ アンケートは、個々の障害支援の形が様々なので、できるだけ答えやすいものにした。 ・ 対象者には公平に調査を実施したい。 ・ シンポジウムは、障害児関係者だけでなく、一般市民や行政など幅広い意見が聞けるものにした。 	
プラン立案で 苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災知識を補うため、どの団体に協力を依頼するか？ ・ 一般／障害福祉関係者／行政に広く協力を求めるため、どこに依頼するか？ ・ 勉強会／シンポジウムに参加する人を増やすため、どのように PR するか？ 	

Ⅲ実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	14名
	外部スタッフの総人数	第一回勉強会 約10名 アンケート調査 約50名 アンケート集計 15名 アンケート分析 6名 シンポジウム 12名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 小田多佳子 (びーす理事長) 進行管理 松本尚子 (びーす副理事長/総務担当) 会計管理 梶山由紀子 (びーす副理事長/会計担当) 催し管理 田中和美 (びーす事務局次長) 印刷物管理 出来薫 (びーす事務局長) 第一回勉強会 企画制作 吉村憂希 (NPO 青少年育成審議会 JSI 理事長) 全体管理 小田多佳子 アンケート調査 全体管理 西川満美 (びーす運営スタッフ) アンケート分析&印刷物作成 全体管理 小田多佳子 シンポジウム 企画 小田多佳子 制作 松本尚子 渉外 出来薫
準備に要した日 数・時間	準備期間	第一回勉強会 H17 3月~9月実施当日まで アンケート調査 H17 6月~11月初め 印刷物作成 H17 11月~12月末 シンポジウム H17 12月~1月実施当日まで
	準備総時間	第一回勉強会 およそ15時間 アンケート調査 およそ1ヶ月 印刷物 およそ2ヶ月 シンポジウム およそ10時間
	上記の内打合せ回数	約40回
教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	大阪府立和泉養護学校 本郷校長 大島教頭 大阪府立堺養護学校 奥野校長 和泉教頭 大阪府立泉北養護学校 辻下校長 小林教頭 堺市立百舌鳥養護学校 近藤校長 吉田教頭
	どのように働きかけたか	当会員の各学校保護者より連絡をとり、説明にうかがった
	結果	勉強会やシンポジウムのPRチラシの配布、アンケートの内容の確認、アンケートの配布と回収、冊子の配布に協力をもらった
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	野田まちづくり協議会 森田正朝さん

	どのように働きかけたか	知り合うきっかけになった堺市市民活動補助金担当の市長公室に電話をし、防災マップづくりをしている上記団体の連絡先を教えてもらい、連絡をする
	結果	シンポジウムへの登壇と、今後の障害児の防災を考える上で、自治会活動との関わりが重要であることから、今後もつながりをもって活動することになった。
保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	大阪府立堺豊学校 PTA
	どのように働きかけたか	当会員である保護者より紹介をしてもらい話し合う。
	結果	勉強会やシンポジウムのPRチラシの配布、アンケートの内容の確認、アンケートの配布と回収、冊子の配布に協力してもらった
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	第一回勉強会 機材：プロジェク、スクリーン、パソコン、マイク シンポジウム 機材：プロジェクター、スクリーン、パソコン、マイク 教材：コンビニパンフ、ぽっぽやパンフ
	入手先・入手方法	第一回勉強会 機材：プロジェクターはレンタル、 パソコンは、共催団体が準備 スクリーン、マイクはホール備品を借用（有料） シンポジウム 機材：プロジェクター、スクリーン、マイクは、ホール備品を使用（無料） 教材：P&A-大阪よりいただく（郵送料のみ）
	機材・教材選定の理由（なぜこの機材・教材を選んだのか）	機材：パワーポイントを用い、理解しやすく説明などをするため。 教材：報告書に記載した内容を紹介するため
参加者の募集	募集方法	第一回勉強会 ・各学校でチラシを配布 ・障害児施設などへのチラシ配布 ・堺市内の障害者団体にチラシの郵送やFAX ・堺市内の障害者生活支援センターチラシを郵送 ・当団体の事業、メールニュースにて告知 シンポジウム ・各学校でチラシを配布 ・障害児施設などへのチラシ配布 ・堺市内の障害者団体にチラシの郵送やFAX ・堺市内の障害者生活支援センターにPRを依頼 ・当団体の事業、メールニュースやメールマガジンでのPR
	募集期間	第一回勉強会 H17年9月1日～9月25日 シンポジウム H17年12月28日～1月25日
	参加予想人数	第一回勉強会 100名 シンポジウム 100名
	実際の参加人数	第一回勉強会 81名 シンポジウム 73名

	募集方法の成功点	<p>学校の協力があったので、保護者全員に速やかに PR ができた</p> <p>普段よりつきあいのある各団体が PR にとても協力してくれた</p> <p>チラシを多く印刷したので、会員が自ら手配りや FAX で PR をしてくれた</p> <p>メールニュースなどは、そのまま知人に転送などして PR されたようである</p>
	募集方法の失敗点	<p>障害児関係だけになってしまった。</p>
準備で苦労した点・工夫した点		<ul style="list-style-type: none"> ・ 協力者が幅広く多数現れ、内容の充実や広がりにつながったが、その反面、連絡する所が多くなり、内容の確認や連絡などに時間がかかった。 ・ 障害児家族の特性を考え、調査したい内容の吟味と、できるだけ答えやすい形の模索をするため、多数の意見を聞き、その都度準備スタッフが試して確認をするという作業に時間と労力がいった ・ プロジェクト全体に多数の意見を反映する中で、意見の違う内容も多々あったので、その取舍選択が難しかったが、その都度当事者の立場にたってベストはどれかに立ち返りスタッフで会議をかさね判断をした ・ アンケート回答の集計結果は、そのまま数字を報告するのではなく、そこから何がわかるかを分析したが、分析する時間が短く、分析担当者が作った第一案を当法人内での会議やメールでのやりとりで最終案にし、それを関係各位に見ていただく方法をとった。時間がもっとあれば、違った視点からの分析もできたように思う。 ・ シンポジウムでは、幅広い意見をとりいれることと、防災の基本的な勉強会も行うため、堺市行政へ登壇依頼をしたく、堺市の事業「出前講座／災害に備えて」を利用し、そこにシンポジウムをミックスさせる形にした。

IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2004 11月			
12月	打合せ2回		
2005 1月	打合せ2回 チャレンジプラン申請	勉強会講師探し 内容説明訪問	
2月	チャレンジプラン発表準備 (病気のため参加できません)		
3月			
4月			
5月	第一回勉強会 企画会議1回	第一回勉強会 会場予約	
6月	アンケート企画会議	集計ボランティアスタッフ 打合せ1回	
7月	勉強会 PR 及び アンケート企画会議	第一回勉強会 講師打合せ1回 養護学校4校に訪問説明 聾学校 PTA に訪問説明	
8月	アンケート作成会議2回	第一回勉強会 準備会議1回 PR チラシ作成	
9月		第一回勉強会 PR チラシ配布/郵送 申込受付 講師打合せ2回 準備会議 1回 資料印刷、受付準備など シンポジウム 会場予約	第一回勉強会実施
10月	アンケート内容検討会議5回	アンケート作成 印刷/製本	
11月		アンケート 養護学校/聾学校へ配布の依頼 回収/集計 8回作業	アンケート調査実施
12月	冊子及び報告書の内容検討会議 4回 シンポジウム 企画会議1回	アンケート分析/原稿執筆 冊子 原稿制作 報告書 原稿制作 冊子印刷発注 シンポジウム 出演者探し/依頼 堺市出前講座申込	
2006 1月		報告書印刷/製本 冊子完成 養護学校/聾学校へアンケート報告 5校 シンポジウム PR チラシ作成/印刷 PR チラシ配布/郵送 準備打合せ2回 出演者打合せ3回 協力団体打合せ2回 資料準備、受付準備など	シンポジウム開催

V実践の詳細 【B. イベント】(短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	障害児の防災を考えるシンポジウム		
実施日	平成18年1月30日(月)		
所要時間	30分	40分	50分
達成目標	障害児のニーズを明確にし、防災の提案をする	堺市の防災対策を知る	防災に取り組んでいる一般市民/障害福祉課/危機管理室の立場から、障害児の防災について意見を聞く
生成物	アンケート調査報告書 冊子(障がい児の防災を考える一冊)	堺市作成ハザードマップ 危機管理室用意レジュメ	
進め方 (箇条書き)	報告書に沿って、説明	堺市出前講座「災害に備えて」の講	1: 危機管理室より、報告を聞いての感想 2: 障害福祉課より、現在堺市行政が話し合っている災害弱者の防災対策紹介とアンケート報告を聞いての感想 3: 市民の方より取り組んでいる防災活動の紹介と、報告を聞いての感想 4: 意見交換
ツール (特別に用意したもの)	PC(パワーポイント) スクリーン プロジェクター		
場所	堺市総合福祉会館 大研修室		

VI実践後

<p>参加者へのアンケート結果</p>	<p>養護学校保護者： アンケートを記入している段階で、色々と考えさせられることがありました。不安だけを感じ、実際には何も具体的対策をとってなかったことを反省し、できる範囲で努力したいです。</p> <p>養護学校保護者： 何かしなければ・・・思いがありながらも何も準備していなかったが、今回改めて準備しようと思いました。地域の人にもっと子どもの事を理解してもらい、いざという時にあわてて説明しなくても大丈夫なように、私達親ももっと外に出て、待つのではなく、自分からアピールする必要があると感じました。</p> <p>幼児保護者： 災害に備えて物品の準備しなければ・・・とそればかり気にしていたが、「地域とのつながり」や「近所の人とのコミュニティ」が大切だとわかりました。シンポジウムの話はわかりやすく、なるほど・・・と気付かせてもらいました。</p> <p>幼児保護者： 養護学校へ入学する予定です。もらった冊子をじっくり読み、準備や心構えの参考にしたいと思います。</p> <p>成人障害者母親： とても良いタイムリーな企画でした。シンポジウムも一人一人具体的な話でわかりやすかったです。必要不可欠な学習です。今後ももっと大勢の人が参加し、活動を広げてほしいです。</p> <p>成人障害者母親： 自分達の施設では、災害時の対策を施設側／家族会側で話し合い、マニュアル作りを必要と考えていたところです。今回の資料や、講師の話を参考にして、具体的に考えていきたいと思いました。</p>	
<p>成果として得たこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートにより、養護学校／聾学校という「地域にない学校」の問題がわかった。 ・ アンケートにより、知的障害／発達障害のニーズを数字で確認できた。 ・ 冊子で、具体的な提案ができた。 ・ アンケート調査などにより、障害児保護者に防災へ関心をもってもらえた。 ・ 防災というテーマで、日頃つながりの薄い一般市民や危機管理室と話し合えたり、学校や福祉行政／福祉関係者と防災をテーマに話し合え、今後ともに検討するきっかけをつかめた。 ・ 勉強会を実施することで、堺市の防災の現状や、基本的な防災知識を伝えることができた 	
<p>成果物</p>	<p>障害児の防災を考えるアンケート調査報告書（アンケートを詳しくまとめたもの） 障害児の防災を考える一冊（多数の方に配布するわかりやすいもの）</p>	
<p>広報方法</p>	<p>広報した先</p>	<p>養護学校／聾学校 全5校 障害児施設 全5園 堺市内の障害者団体 5つを通じ、堺市障害者児家族へ 堺市内の障害者生活支援センター 11箇所 当団体会員</p>
<p>広報の方法</p>	<p>PR チラシ メールニュース</p>	
<p>取材にきたマスコミ</p>	<p>なし</p>	
<p>広報された内容（掲載された記事・番組等）</p>		
<p>成功点</p>	<p>養護学校／聾学校保護者全員に配布できた 堺市内の障害者関係のニュースに掲載された</p>	

	失敗点	地域小中学校の保護者にはPRが行き届かなかった。 一般市民への広報はできなかった
全体の感想と 反省・課題	<p>防災に取り組んだのは初めてのことで、勉強会の講師をどうするか？どんな話がよいか？という面に苦労をしたが、準備をする中で多数の協力者が現れ、未熟な私達を支援してくださった。そのことで普段の活動にはないつながりができたことはとてもうれしいことだった。</p> <p>アンケート調査はあまり明確にされていない知的障害児や発達障害児の問題を示せたことは意味があったと思う。</p> <p>ただ、アンケート調査や冊子制作などへ協力（参加）してくれる保護者はとても多かったのに、勉強会やシンポジウムは当法人の他の事業に比べ、参加者数が少なく残念だった。</p> <p>今後は、より多くの人に伝える方法を考えなければいけないと思う。</p> <p>また今回つながりができた各方面の方達と、今後も継続して防災を考えていくため、活動を継続していこうと思う。</p>	
今後の予定	来年度以降の進め方	<p>来年度は、今年度作成した冊子をできるだけ広範囲に配布することで、より多くの協力者（関心をもってくれる人）を増やしていく。</p> <p>また今回協力いただいた養護学校／聾学校とは。アンケート報告を元に、よりよい防災対策を検討していただけるよう話し合っていく。</p> <p>さらに、障害ゆえに独特な避難訓練や防災教育が必要な障害児に対して、どのような訓練や教育が有効かを研究する。</p>
	是非実施してみたい 取り組み	<p>今回は養護学校／聾学校という範囲での取り組みになったので、地域小中学校や障害児施設などに通う障害児を対象にした企画も検討したい。</p> <p>また、防災に関心をもった保護者に対して、大規模なイベントではなく、小規模の具体的な防災勉強会を継続的に実施していきたい。</p> <p>防災手帳の必要性、安否確認の方法などを研究してみたい。</p>

自由記述

今回はじめて防災というテーマに取り組んだ当団体は、もともと防災知識が全くなく、何もかも手探りでスタートとなりました。当初、防災面の助言をいただくため堺市の NPO 法人に共催団体として協力をいただくことになりましたが、途中、プロジェクト主旨の理解にズレが生まれ、共催を降りられたことは、当団体にはつらい経験となりました。

しかし助言元を失った後、力不足の私達を、チャレンジプラン事務局をはじめ、他の防災や町づくり関係 / 市民活動関係の方達にご支援くださり、なんとか最後までやりとげられたことは、とても感謝していますし、新しい出会いがあったことをうれしく思っています。

また常日頃、縦割りのしんどさを感じている行政との話し合いも、今回は、障害福祉課、危機管理室、教育委員会が、積極的に応援をくださり、時には私達の力不足の面を、直接連絡をとりあうなど調整いただいたこともあり、うれしく思いました。

加えて、各養護学校の校長 / 教頭より、今後の活動についても、積極的協力をしていこうという言葉ももらっています。来年度以降も、小さな動きしかできませんが、継続して取り組んでいきたいと思えます。

最後に、1月31日に読売新聞記者より電話がありました。以前、別事業で取材いただいた方で、今事業の詳細をお尋ねでした。冊子や報告書をお渡しし、説明することになりました。このようにプラン期間内を過ぎても、多数の方と話し合うことを大事にしていきたいです。(取材は記事にさせていただけるようです)